



ぐんま・県土整備プラン2020

ぐんま・県土整備プラン2020とは

2040年に目指す将来像の実現に向けて、道路や河川、砂防施設、県立公園、下水道、県営住宅など、社会資本の整備や維持管理を「どのような考え方で、どのように進めていくか」を示す県土整備分野の最上位計画

【計画の期間】

令和2年度(2020年)から 令和11年度(2029年)までの10か年計画

社会資本整備を取り巻く変化の見通し

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| ○温室効果ガスによる地球温暖化（ぐんま5つのゼロ宣言） | ○加速する社会資本の老朽化 |
| ○人口減少と高齢化の更なる進展 | ○公共交通の衰退のおそれ |
| ○市街地の拡散と低密度化 | ○社会資本整備と維持管理の担い手の減少 |
| ○AI や IoT などの新技術の進展 | ○コロナ後の「ニューノーマル」への移行 |
| ○SDGsの理念に基づく、グローバルな視点からの地域課題の克服 | |

気候変動の影響等による気象災害の頻発化・激甚化

令和元年東日本台風による甚大な被害を踏まえた
「群馬・気象災害非常事態宣言」の発出

見直しのポイント

気象災害の新たな脅威にしっかりと対応するため、
ハード・ソフトが一体となった防災・減災対策を加速

水害対策

土砂災害対策

道路防災

2040年に目指す将来像

災害に強く、安定した経済活動が可能な群馬県

誰もが安全・快適に移動でき、
人と人、人と地域のつながりを生み出す群馬県
地域に愛着や誇りを持ち、
良好な社会環境のもとで持続的に暮らせる群馬県

将来像の実現に向けた「政策の方向性」

目指す将来像と現状のギャップと課題

- ①気候変動の影響等により頻発化・激甚化する気象災害と増大する灾害リスク
- ②依然として気象災害の危険にさらされている多くの人命・財産
- ③災害の危険が迫っても、自ら逃げない・逃げられない住民
- ④重要交通網の寸断による社会的・経済的損失リスクの増大

今後10年間の政策の方向性

【災害レジリエンス No.1 の実現】

本県を襲った令和元年東日本台風をはじめ、近年、気候変動の影響等により、水害等の気象災害が頻発化・激甚化する中で、気象災害の新たな脅威にしっかりと対応できる、「災害レジリエンスNo.1」の実現に向け、ハード・ソフトが一体となった防災・減災対策を加速させる

【持続可能で効率的なメンテナンス】

厳しい財政状況の中、社会資本の老朽化や劣化を原因とする事故を防ぎ、県民の安全・安心な生活を守るとともに、メンテナンスに係るトータルコストの中長期的な縮減、平準化を図るため、持続可能で効率的なメンテナンスを推進する

【多様な移動手段の確保】

人口減少と高齢化の更なる進展による交通需要の変化に対応した「誰もが安全で快適に移動できる社会」の実現に向けて、多様な移動手段を確保するための取組を推進する

【住み続けられるまちづくり】

人口減少と高齢化が同時に進行する局面でも、誰もが生活に必要なサービスを持続的に享受できるよう、効率的で快適なまちづくりの促進に向け広域な観点から市町村のまちづくりを支援する

【美しく良好な環境の保全】

将来の県民に良好な環境を引き継ぐため、「自然環境の保全」や「健全な水循環の維持・回復」を推進するとともに、温室効果ガスの排出量実質「ゼロ」を目指し、地球温暖化対策を推進する

【社会資本の整備と維持管理の担い手の確保・育成】

社会資本の整備と維持管理の担い手であるとともに、地域の安全・安心の守り手として欠くことができない建設産業の健全な発展に向け、働き方改革や現場の生産性の向上、さらには魅力の発信に取り組み、担い手の安定的かつ持続的な確保・育成を支援する

将来像の実現に向けた「新たな視点」

2050年に向けた「5つのゼロ宣言」

群馬・気象災害非常事態宣言
ぐんまSDGsイニシアティブ～SDGs先進県に向けた決意宣言～